

日韓における地域間連携推進シンポジウム

開催報告書

平成 24 年 1 月

国土交通省 国土政策局

目次

(敬称略)

■シンポジウムの目的及びプログラム

■開会挨拶

国土交通省国土政策局長 小島 愛之助.....	1
国土海洋部国土政策局長 金 景植 (キム・ギョンシク)	2

■基調講演

「広域計画とアジア地域間連携」 東京大学大学院工学系研究科 教授 大西 隆	4
プレゼンテーション資料	13
「韓日間超国境的地域連携発展戦略及び課題」	
国土研究院緑色国土・都市研究本部前任研究委員 崔 榮國 (チェ・ヨングク)	26
プレゼンテーション資料	33

■パネルディスカッション 第1部 (日韓各パネリストによる事例発表)

北陸経済連合会 常務理事 寺尾 重資	52
プレゼンテーション資料	56
全南発展研究院都市研究チーム長 趙 相弼 (チョ・サンピル)	57
プレゼンテーション資料	60
財団法人九州経済調査協会調査研究部次長 加峯 隆義	65
プレゼンテーション資料	68
慶南発展研究院地域均衡発展研究センター長 鄭 在熙 (チョン・チェヒ)	75
プレゼンテーション資料	78

■パネルディスカッション 第2部 (日韓連携の今後の方向性を討議)

87

■閉会挨拶

国土交通省国土政策局長 小島 愛之助	102
--------------------------	-----

■参考資料

シンポジウムの目的及びプログラム

「東アジアとの円滑な交流・連携」は、広域地方計画の重要戦略目標の一つと位置づけられている。また、韓国においても、地方公共団体の枠を超えた広域的な地域発展を目指す取組みを進められている。

そこで、本シンポジウムは、日韓両国の有識者による基調講演や、広域地域間交流の関係者によるパネルディスカッションを通じて、日韓両国がともに目指すべき「交流・連携」の姿や、その意義及び必要性に係る認識を共有し、交流・連携の機運を醸成することを目的として開催した。

【午前の部】

(敬称略)

- | | | |
|-------|--------------------|------------------------|
| 9:30 | 開場 | |
| 10:00 | 開会 | |
| 10:00 | 日本側開会挨拶 | |
| | 小島 愛之助 (こじま あいのすけ) | 国土交通省国土政策局長 |
| 10:05 | 韓国側開会挨拶 | |
| | 金 景植 (キム・ギョンシク) | 国土海洋部国土政策局長 |
| 10:10 | 日本側基調講演 | |
| | 大西 隆 (おおにし たかし) | 東京大学大学院工学系研究科教授 |
| 11:10 | 韓国側基調講演 | |
| | 崔 榮國 (チェ・ヨングク) | 国土研究院緑色国土・都市研究本部前任研究委員 |

【午後の部】

- | | | |
|-------|--------------------|----------------------|
| 13:15 | パネルディスカッション第1部 | ◆日韓各パネリストによる事例発表 |
| | コーディネーター: | |
| | 周藤 利一 (すとう としかず) | 日本大学経済学部教授 |
| | パネラー: | |
| | 寺尾 重資 (てらお じゅうじ) | 北陸経済連合会 常務理事 |
| | 加峯 隆義 (かぶ たかよし) | (財)九州経済調査協会 調査研究部次長 |
| | 趙 相弼 (チョ・サンピル) | 全南発展研究院都市研究チーム長 |
| | 鄭 在熙 (チョン・チェヒ) | 慶南発展研究院地域均衡発展研究センター長 |
| 14:10 | パネルディスカッション第2部 | ◆日韓連携の今後の方向性を討議 |
| 15:55 | 閉会挨拶 | |
| | 小島 愛之助 (こじま あいのすけ) | 国土交通省国土政策局長 |
| 16:00 | 閉会 | |

開会挨拶

＜日本側＞



国土交通省国土政策局長

小島 愛之助

本日の日韓における地域間連携推進シンポジウムの開催に当たりまして、日本側主催者を代表いたしまして、ご挨拶申し上げます。

初めに韓国の皆様方には、昨年3月11日の東日本大震災の際に、心温まるご支援をいただきましたことに感謝申し上げます。また本日、韓国から多くの方々に海を越えてご参加いただきましたことにも、改めて感謝申し上げたいと思います。

わが国と韓国は、海峡をはさんで隣り合う、地域的にきわめて近い関係にあります。地域的に近いだけでなく、貿易については、わが国と韓国は貿易相手国として互いに第3位でございます。また人の往来につきましては、2010年は日韓双方で546万人の相互交流が行われ、韓国は国別の訪日來客者数で第1位であり、また日本は国別の訪韓來客数で第1位であります。

このように経済や人の交流における関係は、今後、ますます重要なものになってくるものと考えております。国土計画に関しましては、国土交通省と国土海洋部の間で20年近くにわたって国土計画分野協力会議を交互に開催し、同会議を通じた情報交換、相互協力を行ってきております。また2010年に行われた協力会議での意見交換を機に、日韓の地域間交流を推進するための実務者協議が行われることとなりました。

わが国では2009年に全国8ブロックの広域地方計画が策定され、韓国におかれましても2010年に3つの海岸圏にかかる発展総合計画が策定されたところであります。両計画は、県や道という

行政区域の枠を超えた広域的な圏域が主体となつて、地域の発展を目指すものであり、グローバルな展開も重要な要素と位置付けております。このように国土計画の分野におきましても、日韓両国は互いに欠くことのできないパートナーとなっております。

一方、国境を越えた広域的な地域間の連携の取り組みは、まだ始まったばかりでございますが、両者にとってメリットのある交流連携の必要性などの認識を日韓の関係者で共有することが重要であると考えております。このような時期に日韓における地域間連携推進シンポジウムが開催されることは、大変意義深いことと考えております。

本日のシンポジウムでは初めに大西先生、崔先生による基調講演や日韓4名のパネリストの方々による具体的な事例発表を踏まえたパネルディスカッションが予定されております。

本日のシンポジウムが日韓の関係者の間で共に目指すべき地域間の交流と連携の姿や、その意義及び必要性の認識を共有し、交流連携の機運を醸成するための契機として、実り多い成果を挙げることを祈念いたしまして、私からのご挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

<韓国側>



国土海洋部国土政策局長

金 景植 (キム・ギョンシク)

皆様にお会いできて、本当に嬉しく思っております。

韓日両国は、国土計画分野において、長い間、協力を強化してまいりました。また、きょう、両国の関係者の方々が集まり、地域間連携協力事業推進のためのシンポジウムを開催することができまして、大変意義深いものだと考えております。

今回のシンポジウムを準備された日本の国土交通省の小島国土政策局長はじめ、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。きょうのシンポジウムは、これまで両国において毎年開催してきました国土計画分野協力会議で培った経験を元に、実質的な協力をしていくことができる、非常に意義深い席でもあります。

特に日韓両国においては、非常に越境的な地域間の連携の必要性に対して、その共感帯（共感できる部分）を作り、具体的な方策を論議する出発点になると思われます。きょうの論議を通して、これからの両国の協力事例を紹介するとともに、これからの協力が必要な事業を発掘し、今後の発展方向を模索するよい機会になると思われます。

日韓両国は、グローバルな競争力を確保し、未来志向的な国土発展のための各地域間の連携と緊密な協力をしていくための発展戦略を試みております。

韓国の場合は、東、西、南海岸を開発することを設定しております。その地域がそれぞれ、協力をしながら、成長、潜在力を強化できるように育成をしております。

また日本政府においても、4大、広域的な国土地区と、8大の広域地方計画上的の設定を通して、

地域育成、東アジアを狙ったグローバル戦略を進めております。

このように、両国において推進している超広域的な国土開発においては、国境を越えた連携が進めば、両国においても非常に大きな助けになると思います。特に日本と近い韓国の南側は、非常に気温がよくて、海岸もとても美しく、また歴史・文化資源においても非常に特徴を持っています。

韓国はその南海岸を発展させて、環太平洋を狙った新しい経済物流、リゾート、ハブであるラインベルトを調整する計画であります。今年は南海岸地域の麗水（ヨス）市において、5月12日から8月12日までの3ヶ月間、生きている海、息をする海岸、豊かな資源、未来志向的な活動というテーマの下、2012麗水世界博覧会を開催します。

今回、そこでは、そのテーマに沿ったもの以外にも、K-POPの公演など、見るものがたくさんあります。日本の関係では、6・2日本の日を機会にして、帆船を展示、花火、唐津市祭りのパレードなどが参加することによって、盛りだくさんのイベントになると期待されております。

今回、そこで日本が積極的に参与し、行事の成功に寄与することができれば、韓国の南海岸と日本の西南圏が相互協力していくのであれば、両国の未来は明るいと確信します。このような越境的な協力事業をしていくためには、両国の中央政府、自治体、民間企業が一丸となって具体的な方策を発掘して実践することが何よりも大事だと思います。

きょう、シンポジウムにおいて、講演とパネルディスカッション、紹介などを通して、自主的な方策が提示されることを期待しております。韓日両国間の越境的な連携協力が実りあるものになるためには、きょうのシンポジウムのような出会いと討論の場が活性化されることが必要であると考えます。

そのために、来年は、ここにいらっしゃる皆様を含めた関係者と再会して、討論できるように、祈っております。それを韓国で開催したいと思います。

もう一度、きょう、シンポジウムが非常に意味

ある成果を収めることができるように祈りながら、またこのイベントのためにご尽力くださいました皆様に感謝の心をお伝えします。ここにいる全ての皆様の幸福と健康をお祈り申し上げます。本当にありがとうございます。